

鬼怒川堤防決壊の報告 ～なぜそこが決壊したか～

まさのあつこ(ジャーナリスト)

緊急報告集会

鬼怒川の堤防決壊から 白川の安全と立野ダムを考える

2015年9月 29日 18:30分

熊本市 パレア会議室1 (鶴屋東館9階)

目次

- 決壊地点へ歩いて向かう
- 決壊地点へ堤防の上を行く
- 砂利採取が決壊の原因との話について
- 聞き込みを行う
- 上流から決壊現場へ向かう

- ダムには効果があったのか？
- <なぜ決壊したか？>
- <なぜ浸水被害が出たか？>
- <まとめ>

決壊地点へ歩いて向かう



2015年9月14日(月)決壊地点へ歩いて向かう

決壊地点へ堤防の上に行く



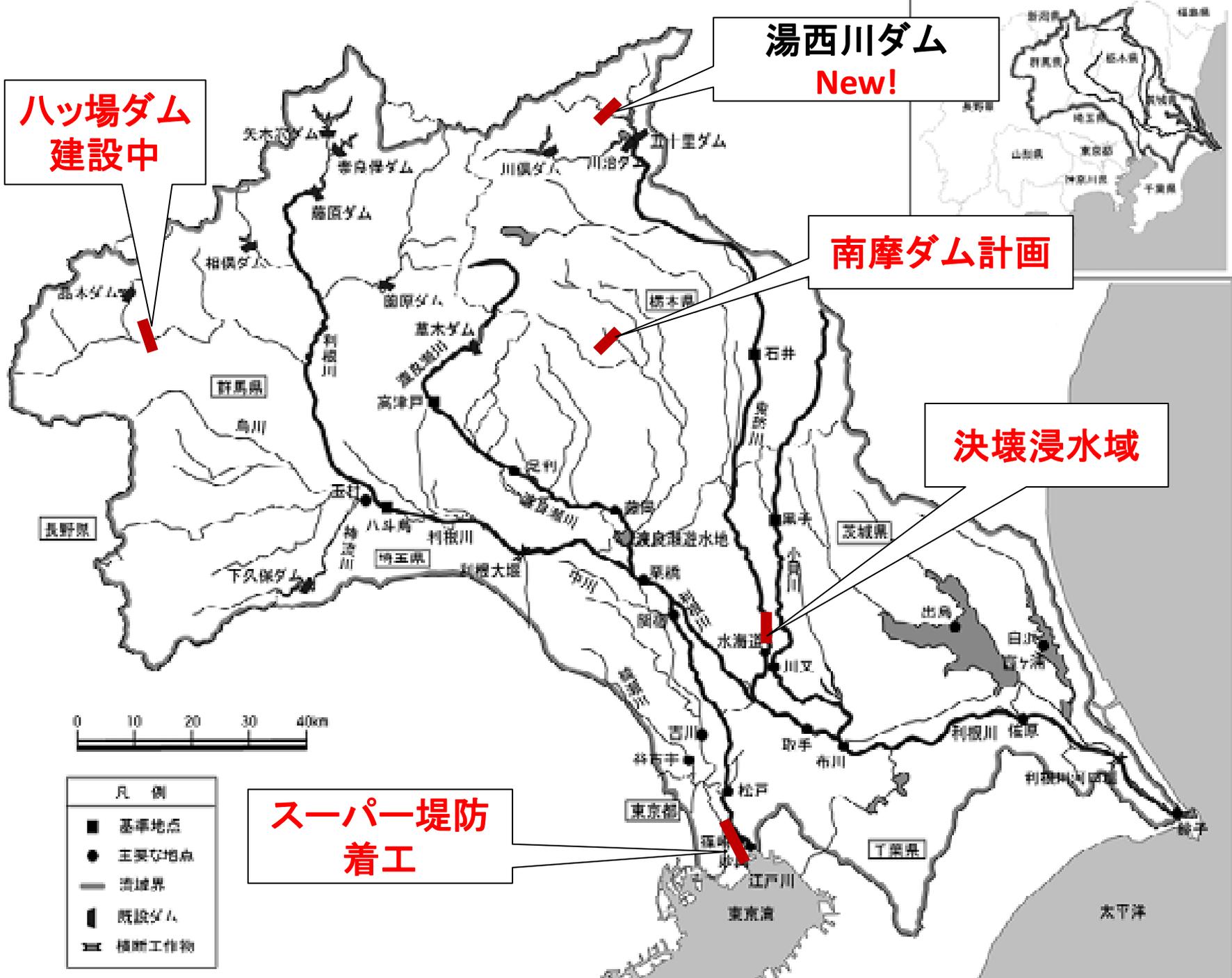
**ハツ場ダム
建設中**

**湯西川ダム
New!**

南摩ダム計画

決壊浸水域

**スーパー堤防
着工**



凡例	
■	基準地点
●	主要な地点
—	流域界
▬	既設ダム
▬	橋脚工作物

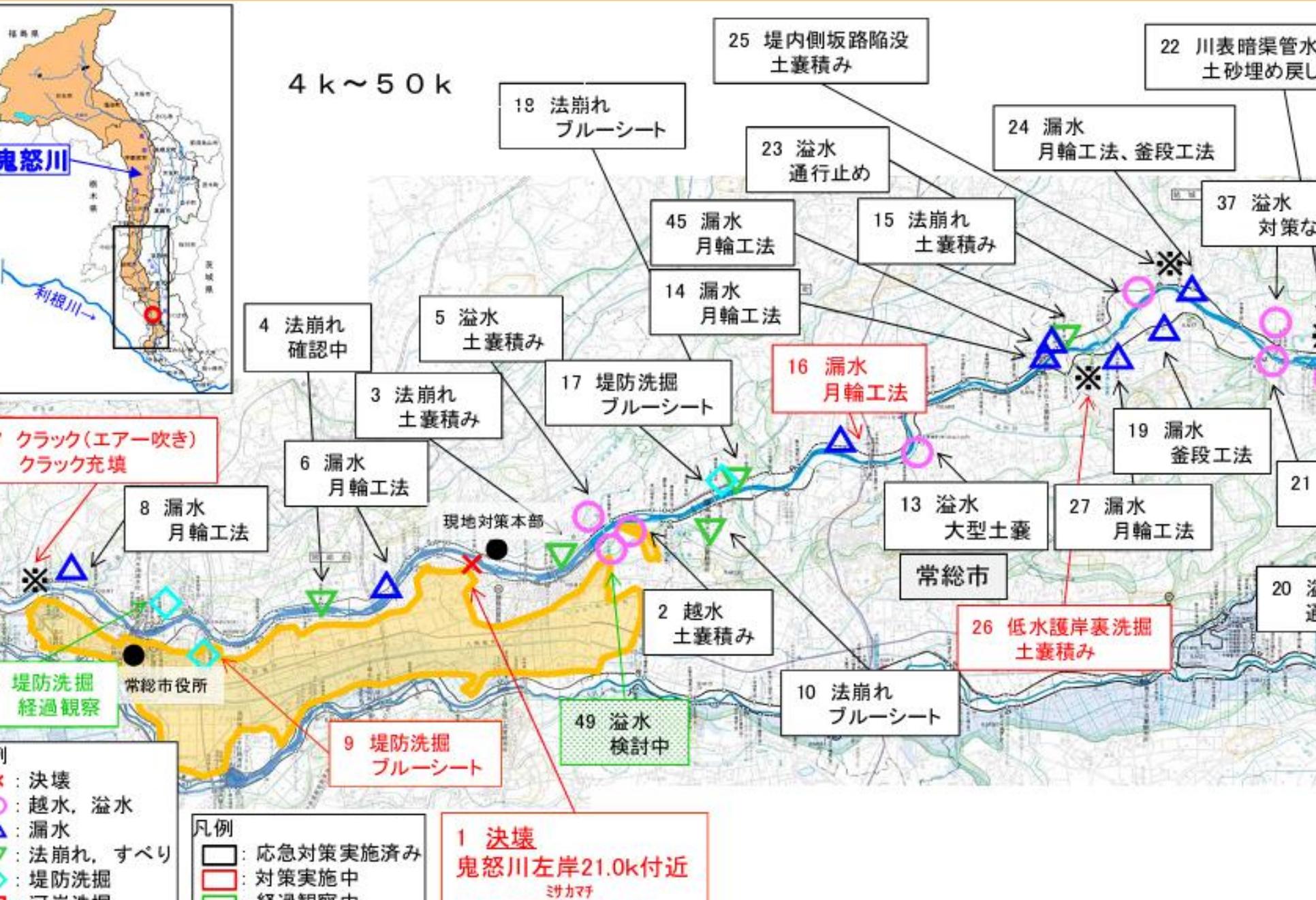


鬼怒川

- 上流
 - 五十里ダム
 - 川俣ダム
 - 川治ダム
 - 湯西川ダム
- 中流 (栃木県)
 - 川幅700m
- 下流 (茨城県)
 - 川幅300m

↓
利根川合流

図 1-2 鬼怒川的主要治水事業



4k~50k

鬼怒川

利根川

クラック(エアー吹き)
クラック充填

堤防洗掘
経過観察

- : 決壊
- : 越水, 溢水
- △: 漏水
- ▽: 法崩れ, すべり
- ◇: 堤防洗掘
- ◇: 経過観察中

- 凡例
- : 応急対策実施済み
 - : 対策実施中
 - : 経過観察中

1 決壊
鬼怒川左岸21.0k付近
シカマ

18 法崩れ
ブルーシート

25 堤内側坂路陥没
土嚢積み

22 川表暗渠管水
土砂埋め戻し

23 溢水
通行止め

24 漏水
月輪工法、釜段工法

37 溢水
対策なし

45 漏水
月輪工法

15 法崩れ
土嚢積み

4 法崩れ
確認中

5 溢水
土嚢積み

14 漏水
月輪工法

3 法崩れ
土嚢積み

17 堤防洗掘
ブルーシート

16 漏水
月輪工法

19 漏水
釜段工法

6 漏水
月輪工法

13 溢水
大型土嚢

27 漏水
月輪工法

現地対策本部

2 越水
土嚢積み

26 低水護岸裏洗掘
土嚢積み

常総市

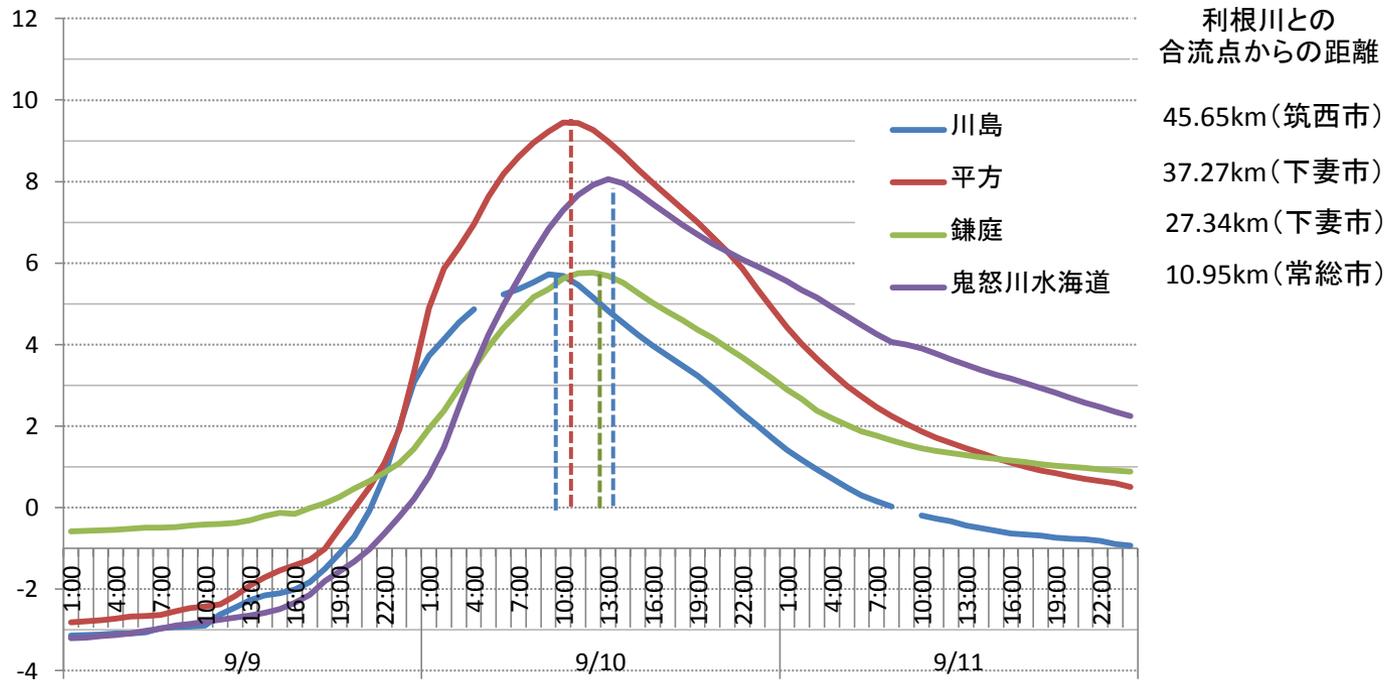
20 溢水

常総市役所

9 堤防洗掘
ブルーシート

49 溢水
検討中

10 法崩れ
ブルーシート



	川島	平方	鎌庭	水海道
標高(m)	28.1008	21.2038	16.5738	9.0738

砂利採取が決壊の原因との話について
聞き込みを行う



2015.9.14撮影©まさのあつこ

決壊地点(左斜め前)に向かって上流に向かって撮影。



2015.9.14撮影©まさのあつこ

決壊地点(左斜め後ろ)を背景に撮影。



2015.9.14撮影©まさのあつこ

決壊地点を左前に撮影。



2015.9.14撮影©まさのあつこ

決壊地点を右斜め前に撮影。



2019.9.14撮影©まさのあつこ

決壊地点を左前に撮影。



2015.9.14撮影©まさのあつこ

決壊から4日目に東京電力が復旧のための調査に。



2015.9.14撮影©まさのあつこ

決壊地点にあった木々とガソリンスタンド



2015.9.14撮影©まさのあつこ

流出した家、自動車が見える。



2015.9.14撮影©まさのあっこ

決壊地点にあった木々とガソリンスタンド



2015.9.14撮影©まどのあつ

決壊の下流端に立つ作業者と修復中の堤防決壊地点、
空き地(左)、堤防道路への道(中央)ガソリンスタンド(右)。



2015.9.14撮影©まさのあっこ

(株)中山石油の中山力夫・代表取締役「オレはそうは思わない」



中山氏「あそこは砂が貯まるから。砂利採取は何十年も行われていた」。



スタンドの隣の空き地から砂利は運び出されていた。



2015.9.14撮影©まさのあつこ

ガソリンスタンドを右に、流入地点を撮影。



2015.9.14撮影©まさのあつこ

ガソリンスタンドを右に、決壊地点(幅100メートル)の上端側を撮影。



2015.9.14撮影©まさのあっこ

ガソリンスタンドを右に、決壊地点(幅100メートル)の上端側を撮影。



2015.9.14撮影©まさのあつこ



2015.9.14撮影©まさのあつこ



2015.9.14撮影©まさのあつこ



2015.9.14撮影©まさのあつこ

ガソリンスタンドを右に、決壊地点(幅100メートル)の上端側を撮影。

30代女性

—毎日朝から夕方4時ぐらいまで何十台ものトラックが来て(砂を)取り続けていた。

—こんな目に合ってどうして誰も何も言わないのか不思議だと思っていた。

—道の両側の家や木や洗濯物に土煙がこびりつくので散水車まで出ていたほどです

—ガソリンスタンド隣の空き地からダンプが出て、美妻橋の上流側から常総中学校と三妻小学校の辺りに運び込んでいたが、何をしていたのかは分からない。





思い当たる場所に、4キロ、歩いて戻った。その途中・・・



支援物資の配布場所にいた年配の男性達
「そうじゃないよ」と 砂利採取が要因との話を否定。

「あそこは、その橋がかかっている所より2メートルぐらい低いんだ」
「だからここも1メートルぐらいは高くする予定だった」

Q:いつ？

「知らねえよ。国土交通省に聞いてくれ」



直下流よりも2メートル低かった堤防。

「橋」＝広域農道「アグリロード」

農水省事業で、茨城県農林水産部が2019年の完成を目指して建設中の一区間。2011年に完成。

川に橋を渡す時は、洪水で橋が流されないよう、橋の付け根の道路自体を盛土で高くして建設する。

両岸の堤防もその部分だけはそれに合わせて高くするため、その周囲堤防は相対的に低くなる。



下流より上流の堤防の方が低い・・・

20km地点
決壊の1km下流



下流から上流へ向かって撮影。

河川法に基づいて100年程度の長期方針「河川整備基本方針」を策定。



20～30年程度の「河川整備計画」を策定

鬼怒川は？

- 利根川水系河川整備基本方針 2006年
- 利根川水系利根川・江戸川河川整備計画2013年(鬼怒川対象外)

- 維持管理の重要性から「鬼怒川維持管理計画」には位置づけあり。
 - 栃木県を流れる区間では上流は4基のダムが完成
 - 中流では昭和41年までに十分な高さや幅を持った堤防がほぼ完成
 - 茨城県を流れる下流区間は「狭い川幅」のまま

- 決壊地点周辺は「概ね20年～30年で整備する箇所」
- 住民は「知らない」

鬼怒川維持管理計画？

- 2005年4月、提言「**総合的な豪雨災害対策の推進について**」
 - 社会資本整備審議会河川分科会 豪雨災害対策総合政策委員会
 - 委員長・近藤徹 (財)水資源協会理事長、当時
 - 全国各地で激甚な水害、土砂災害及び高潮災害が数多く発生
 - 災害対策はハード整備とソフト対策があいまって効果を発揮する
 - 今後の投資余力が限られる中で、ソフト対策の選択など、質的な転換が重要
- 2006年7月、提言「**安全・安心が持続可能な河川管理のあり方について**」
 - 委員長・近藤徹 (財)水資源協会理事長、当時
 - これまで経験したことのない規模の集中豪雨や大型台風の襲来
 - 昭和40～50年代に設置された多くの施設が更新時期を迎える
 - 河川管理は河川整備とならんで河川行政の根幹をなす
 - 維持管理」に重きを置くべきである
- 2011年「河川砂防技術基準 維持管理編」に策定

ところが一方・・・

- 「社会資本整備審議会の河川整備基本方針検討小委員会
 - 委員長2001年～近藤徹(財)水資源協会理事長、
 - 2007年～福岡捷二 中央大学 研究開発機構教授
 - ダムありきの長期方針「河川整備基本方針」にお墨付き
 - 下位計画「河川整備計画」では、古いダム建設計画を踏襲

矛盾する政策決定を答申した近藤徹氏はかつて建設省河川局長、独立行政法人水資源機構理事長、(財)水資源協会理事長を歴任した河川ムラ重鎮

民主党連立政権で2009年～「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」が設置されたときにも、質的な転換の議論には至らず、ダム建設を他の代替案を事業総額の残額で比較してダムが有利とする答申が出続けている。

上流から決壊現場へ向かう

〒300-2506 茨城県



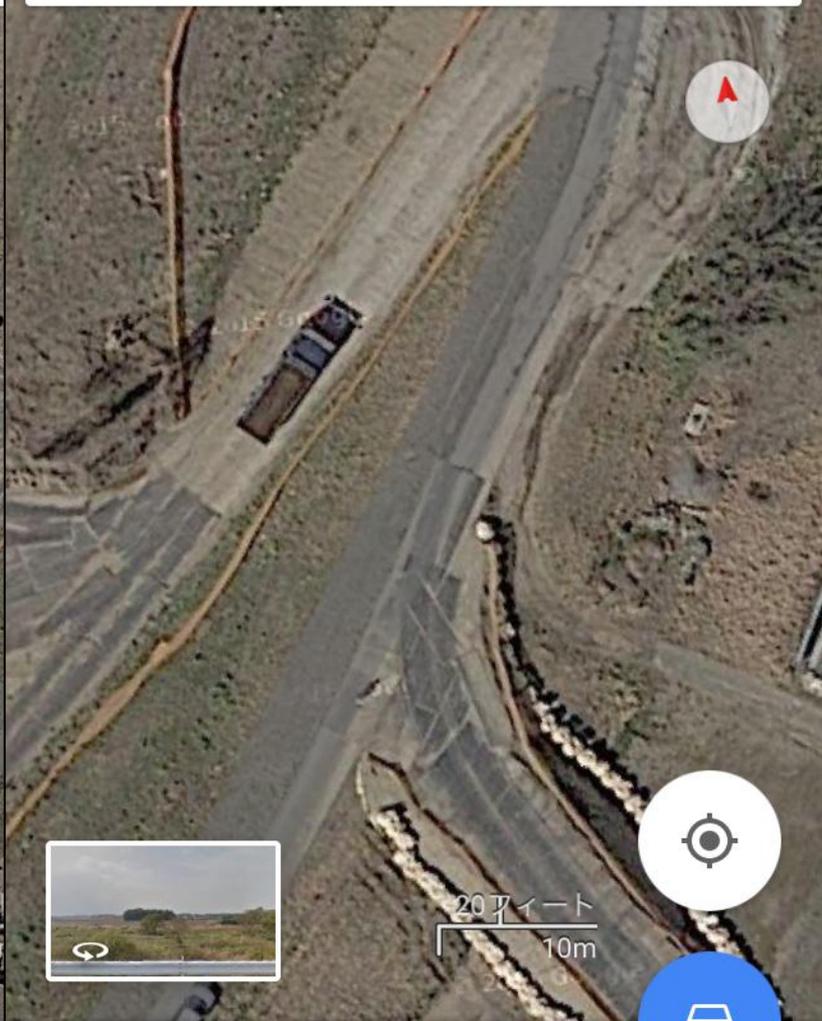
〒300-2506 茨城県常総市三坂町
 〒300-2506 茨城県常総市三坂町

〒300-2506 茨城県



〒300-2506 茨城県常総市三坂町
 〒300-2506 茨城県常総市三坂町

〒300-2506 茨城県



〒300-2506 茨城県常総市三坂町
 〒300-2506 茨城県常総市三坂町 2時間 5分



2015.9.24撮影©まさのあつこ

決壊地点を背に、上流に向かって撮影。決壊した堤防もこのようなものと考えられる。



2015.9.24撮影©まさのあつこ

決壊地点に向かう堤防道路。下流に向かって撮影。



2015.9.24撮影©まさのあっこ

決壊地点へ。下流に向かって撮影。



2015.9.24撮影©まさのあっこ

広い河川敷に草が生えている。



9月12日 15時現在 被災現場
4 現地測量状況（破堤地点）
提供：国土交通省関東地方整備局



国土交通省関東地方整備局
河川課
工事現場管理課
(110 00 000)
新田川況観測点

9月12日 15時現在 被災現場
13 現地測量状況（破堤地点）
提供：国土交通省関東地方整備局



2015.9.24撮影©まさのあつこ

直上流ではどのあたりまで水はあったのか？



2015.9.24撮影©まさのあっこ

天端までできていない。



2015.9.24撮影©まさのあつこ

この辺りでは越水はしていない



2015.9.24撮影©まさのあつこ

緩やかに蛇行している。決壊地点は流れが直撃するところだったようだ。



2015.9.24撮影©まさのあつこ

右手が砂利採取されていた河川敷



2015.9.24撮影©まさのあつこ

右手が砂利採取されていた河川敷



2015.9.24撮影©まさのあつこ

記者発表あり「決壊箇所(鬼怒川左岸21k 付近)の応急復旧工事が終了しました」

9月14日 2時～7時現在 被災現場
国土交通省関東地方整備局提供





2015.9.24撮影©まさのあつこ

「5センチ床上浸水しました」 国土交通省関東地方整備局下館河川事務所鎌庭出張所



2015.9.24撮影©まさのあつこ

復旧した堤防、傾いた家々、電中



2015.9.24撮影©まさのあつこ

決壊地点を右手に、下流に向かって撮影。農業用水路、T字路のガードレール



決壊地点を右手に、下流に向かって撮影。農業用水路、T字路のガードレール



決壊地点を左手、上流に向かって撮影。浸水はしたが、流出はしなかった家々。



T字路手前、決壊地点を背にして撮影。浸水はしたが、流出はしなかった家々。



2015.9.24撮影©まさのあつこ

T字路から、決壊地点(左端)に向かって撮影。直上流の流出しなかった家々。

ダムには効果があったのか？

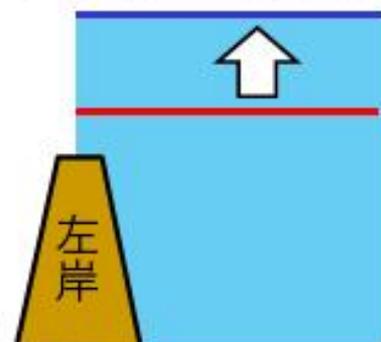
【別紙2】 試算結果(速報値)

- 今回の出水について、鬼怒川上流の4つのダムがない場合を想定し、今回の箇所以外の堤防は決壊しないと仮定して計算をしています。
- 4つのダムがなければ、決壊地点付近で更に約30cm水位が高くなったと試算されました。
- この場合、今回の氾濫により常総市域で溢れた水量は、約2倍の約6,200万 m^3 となり、被害がさらに拡大したと推定されます。
- ダムがなければ、決壊地点付近だけでなく、ダム下流の鬼怒川全川で越水がさらに増加します。その試算結果が別紙3であり、最大約40 km^2 の浸水面積が約1.3倍の約50 km^2 になると試算されました。

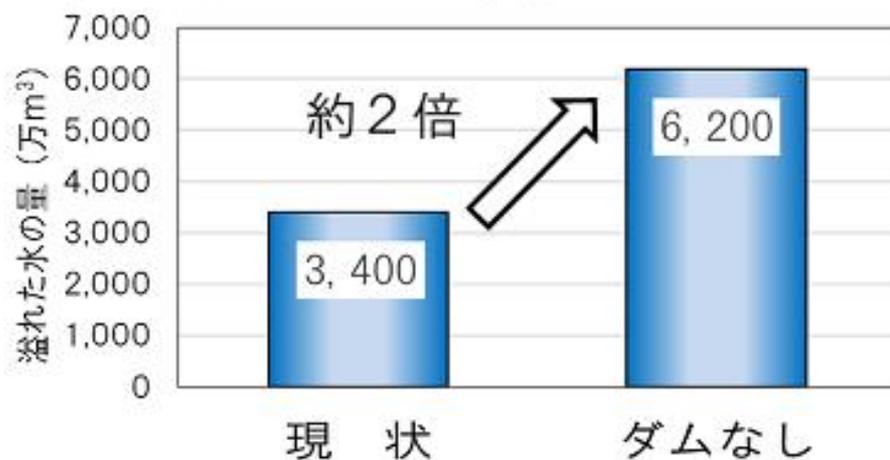
※計算では、決壊地点の上流の氾濫を見込んでいる。

◆決壊地点付近の断面イメージ図

ダムがなければ
さらに約30cm水位上昇

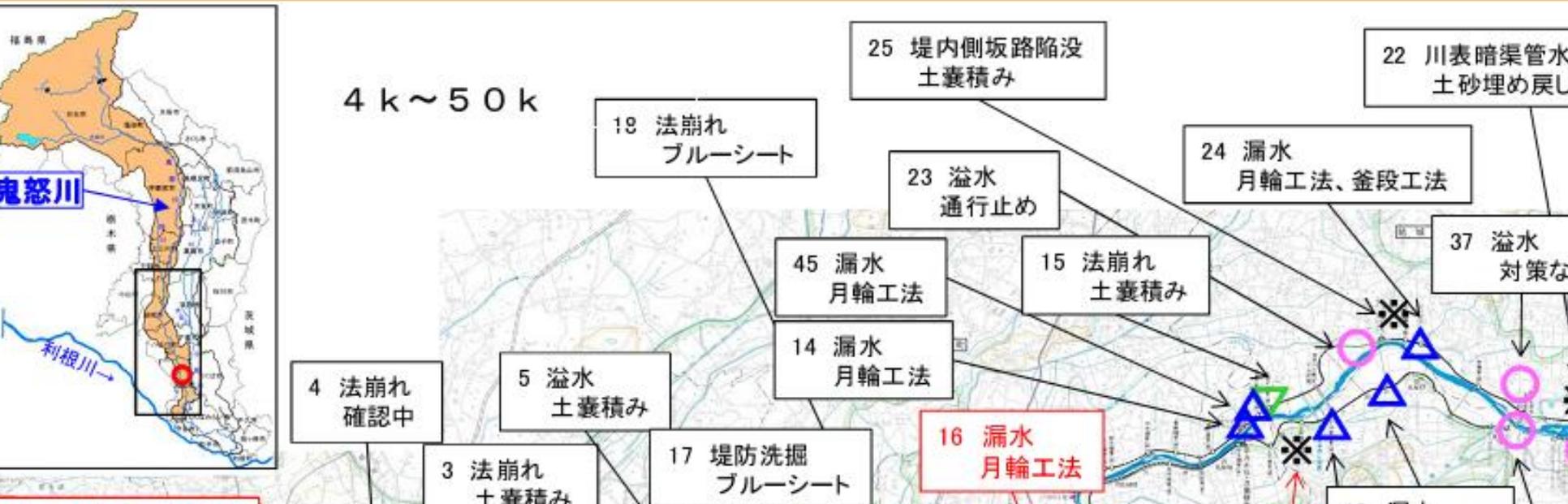


◆常総市域で溢れたと試算された水の量



※これは速報値であり、数値等は今後変わることがあります。

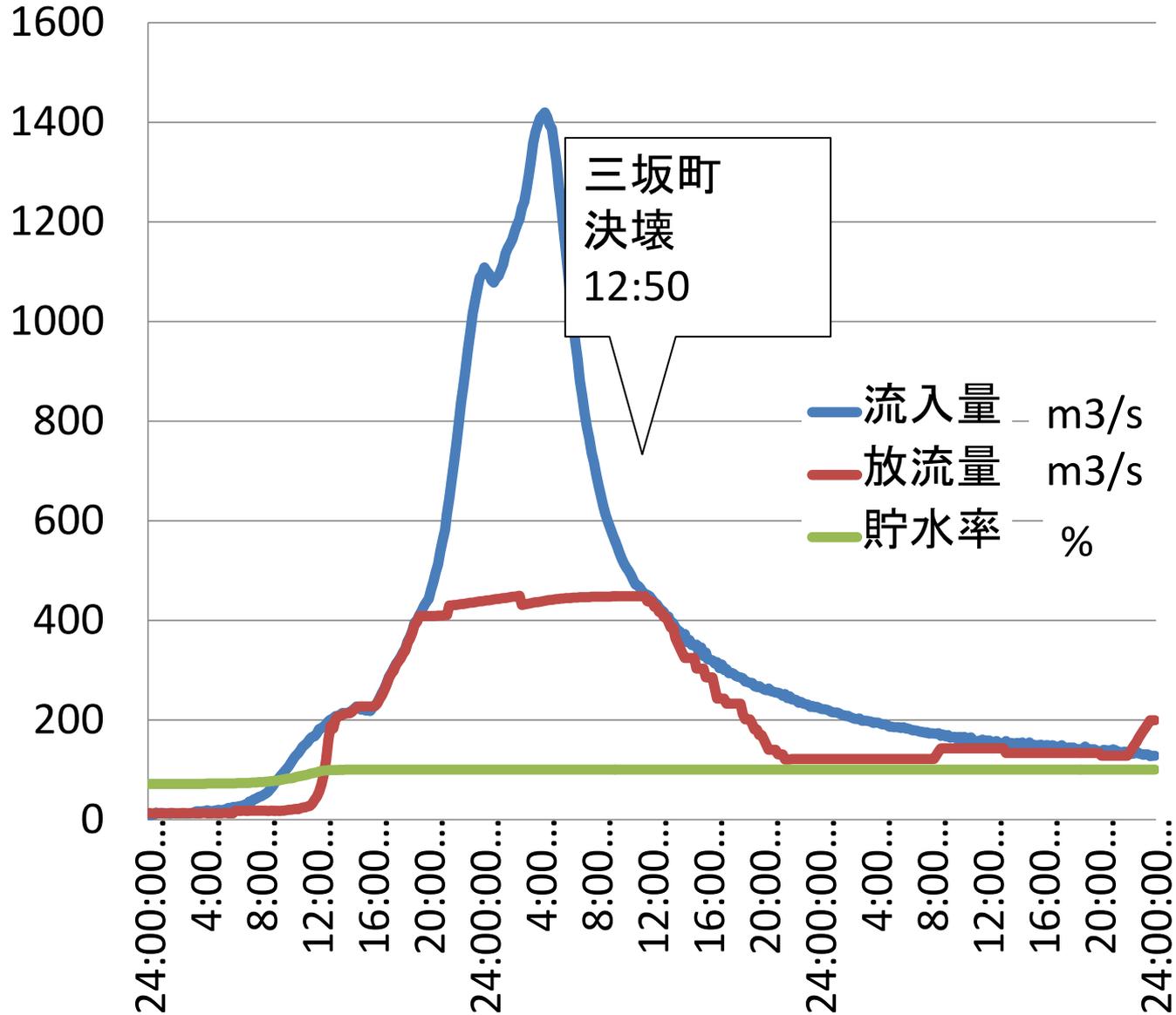




実際には堤防が未整備だった区間に
決壊、漏水、越水が集中した



五十里ダムの流入・放流量および貯水率 (2015年9月9日～11日)

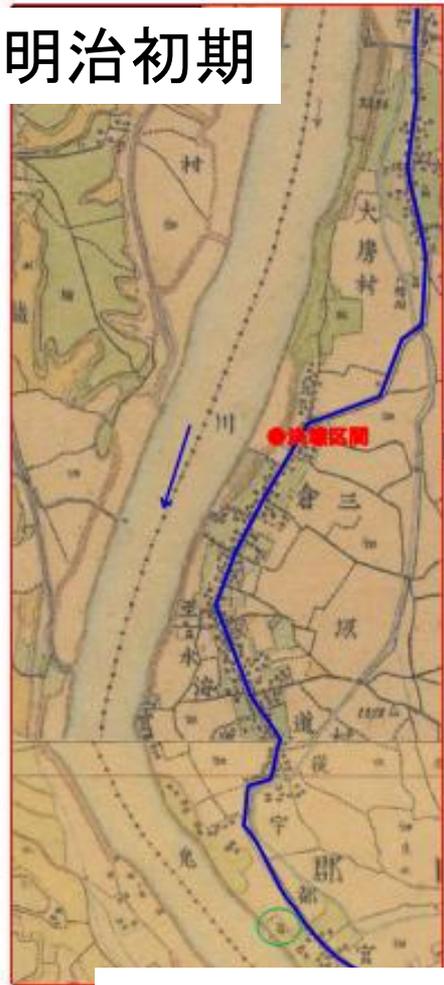




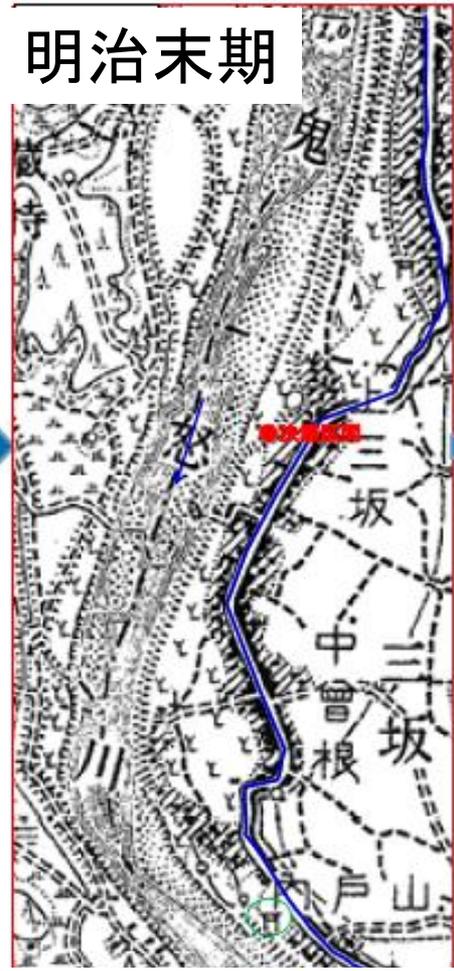
堤防の位置は明治初期から現在に至るまで大きな変化がない

県道357号線(旧谷和原下館線)

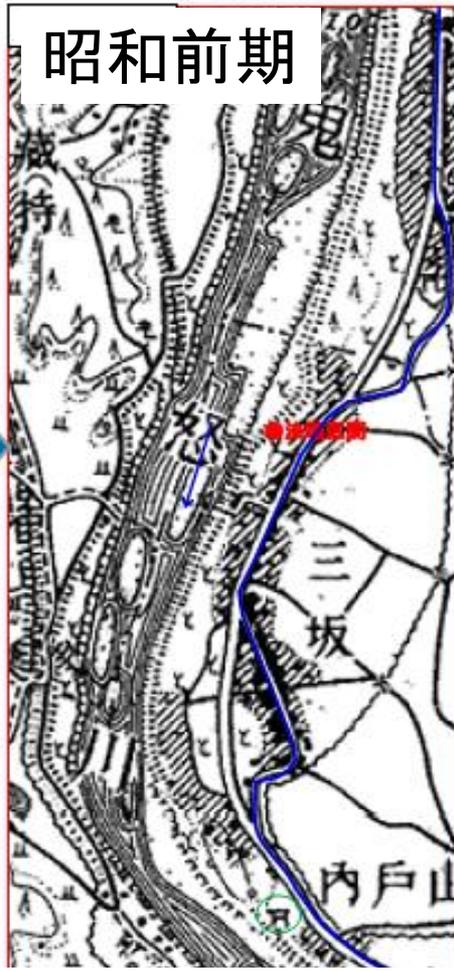
明治初期



明治末期



昭和前期



平成現在



位置は同じでも、ダム等による利水・治水調整により川幅が違う

<なぜ決壊したか？>

- ダムによる治水には限界があった。
- ダムで通常の河道が狭くなり、本来の川幅を河川管理者も住民も見失っていた。
- 整備された川幅の広い(700m)中流から、川幅の狭い(300m)、未整備の下流へ標高差によるエネルギーも蓄えて流れ込んだ。
- 決壊地点は土砂が貯まる場所で浅くなっていた。
- 砂利採取のための道路が堤防を低くした。
- 近年、下流4キロ区間には3つの公共事業が重なり、1)採取された土砂が下流の川幅を狭くした、2)流下能力は低下していた(流速低下→土砂沈下)
- 土砂の貯まった河川敷の上を滑るように低い堤防を越えていったのではないか？

<なぜ浸水被害が出たか？>

- ダムで通常の河道が狭くなり、本来の川幅を河川管理者も住民も見失い、油断していた。
- 1997年の河川法は住民参加がウリだったが、形骸化していた。
- 利根川水系では河川整備計画に鬼怒川は位置づけられず、「維持管理」を重視した「鬼怒川維持管理計画」では中流は「概ね20～30年で整備する箇所」とされていた。
- 住民参加手続はなく、住民は「堤防が低い」と知りながら国交省任せだった。

下館河川事務所から常総市への情報提供概要(速報版)

別紙

【m】

川島水位観測所(45. 65k)

川島 (標高 28.1 m が0メートル)	当該水位 到達時間 (9月9日)	実際の 情報伝 達	伝達内容	伝達方法
水防団待機水位 (0.00m)	21:20	21:20	「水防機関は待機してください」	茨城県への専用回線
氾濫注意水位 (1.10m)	21:40	22:54	「若宮戸で越水の可能性が高い。避難勧告、避難所の準備をしてください」	下館河川事務所から市長への電話
避難判断水位 (1.30m)	22:00			
氾濫危険水位 (2.30m)	23:00	0:15	氾濫危険情報 「川島地点では氾濫危険水位に到達しました」	茨城県への専用回線

15時20分 はん濫発生情報 「常総市新石下※(左岸21k)付近より氾濫しました。」 ※11日に三坂町に訂正
11日 6時40分 はん濫発生情報 「常総市新石下※(左岸21k)付近より氾濫しています。」 ※11日に三坂町に訂正

* ホットライン: 国土交通省から常総市長へ、電話連絡による水位等の河川情報の提供
* 本内容は速報のため、数値等に変更が生じる場合があります。



<まとめ>

住民主体の治水

リスク情報の共有

方針・計画決定への住民参加（優先順序の選択）

行政による縦割り、横割りのない流域治水

溢れた場合の避難

ハザードマップ

溢れても流出しない

浸水域への建築規制